

第50回 取手市民美術展

—市長賞受賞作品紹介—

とりでアートギャラリー（ボックスヒル取手4階）で、第50回取手市民美術展(市展)が開催されました。洋画・彫刻・日本画・写真・書・デザイン・工芸の各部門で、合計135点の作品が出展されました。

ここでは市長賞を受賞した7作品を、作者の言葉と共にご紹介します。

☎文化芸術課 ☎内線1292



洋画『アルペロベッコの街』渡邊憲司さん

イタリア南部にあるアルペロベッコの街。おとぎ話に出てくるような、とんがり屋根の住居・トゥルツリが並んでいます。2年前にイタリアを訪れた際、自分の好きな風景を描きたいと思い、この作品を作りました。



彫刻『ポメリーのビスケットパーク』伊藤園子さん

リングをモチーフにした不思議な生き物「ポメリー」。ビスケットパークの地面はイチゴ味のビスケットでできていて、宙に浮くことができます。物語がある世界観を表現したいと思いました。この作品は、絵本とセットで楽しむものです。



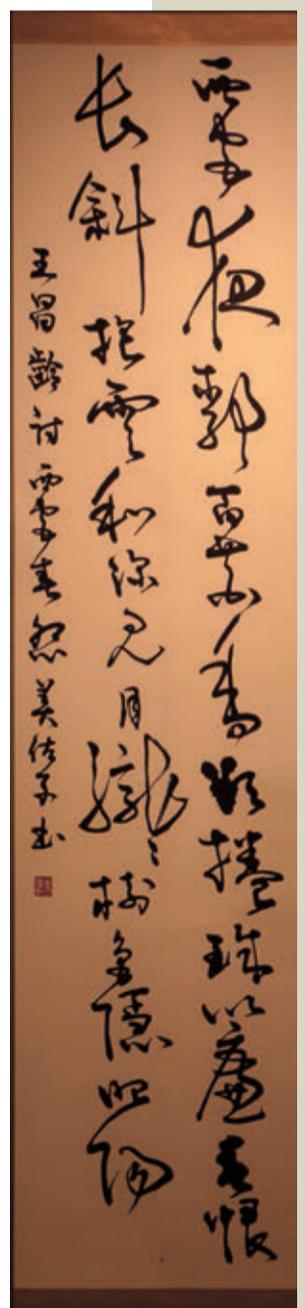
日本画『冴ゆる』川島宰さん

実家が新潟にあり、母に会うために月に1回は帰省しています。道中立ち寄った会津での素晴らしい景色に感銘を受け、描きました。子供の頃から農家の風景は魅力的だと感じていました。



写真『エンゼルポーズ』荒井輝男さん

アオバズクは子育てのために来る渡り鳥です。夜行性なので、日中はほとんど動きません。やっとエンゼルポーズをしてくれた貴重なシャッターチャンスでした。



書『王昌齡詩 西宮春怨』石澤美佐子さん

中国・唐の詩人、王昌齡の詩を書きました。文字の大きさ・墨量・余白などのバランスに気を付けて面白みのある作品になるよう心掛けました。



デザイン『Tiger Eyes』岡田祥美さん

自分の欲しいもの、「虎のような鋭いまなざしで物事を見抜ける力」を表現しました。しかし、そんな目が手に入ったとしても、私はすぐそばにいるネズミに気付かないかもしれません。



工芸『岩稜』細谷隆さん

老人福祉センターあけぼの陶芸同好会に入会して6年。当初から立体形を追究し、特に面と面が交わる稜線を生かすことを考えてきました。また、表面の質感にもこだわっています。

